

大阪府立障がい者自立センター退所者アンケート調査結果

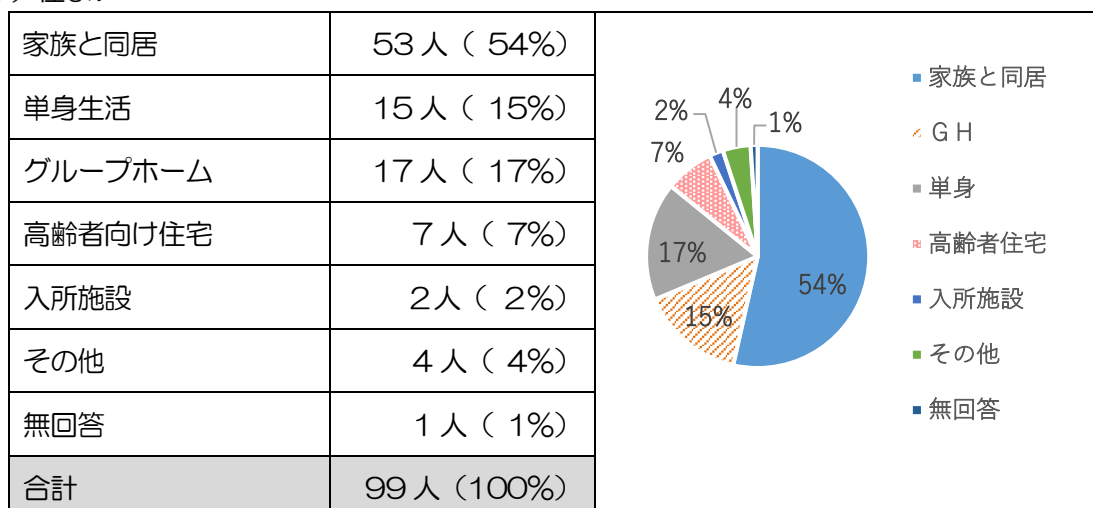
I. 調査概要

1. 調査対象： 令和2年4月から令和4年3月末までに退所された方 114 人
 2. 調査期間： 令和2年4月1日～令和4年3月31日
 3. 回答率：87% (99人/114人)
- ※構成比は、小数点以下第1位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100%とはなりません。
- ※記述欄は、原文のままです。

II. 調査結果

1. 退所後の暮らしについて

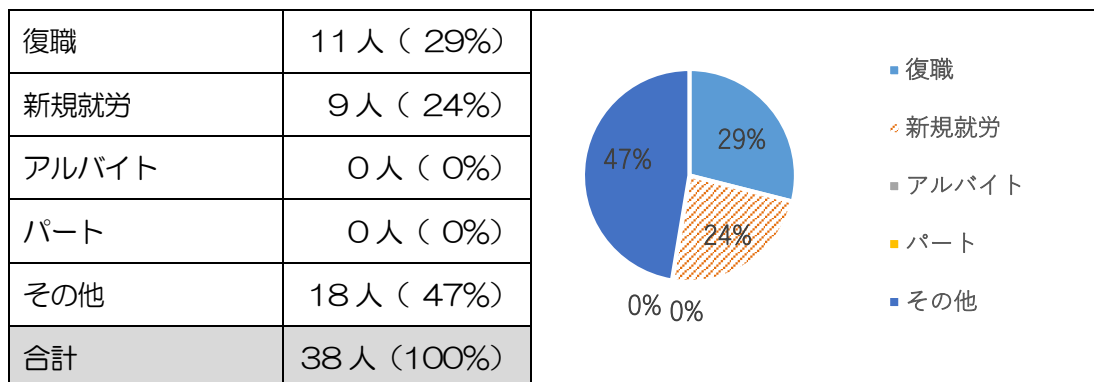
(1) 住まい



(2) 日中活動（複数回答可）

就労	38人 (21%)
学校（復学）	23人 (12%)
障がい福祉サービス	63人 (34%)
介護保険サービス	12人 (7%)
家事・趣味等	44人 (24%)
無回答	4人 (2%)
合計	184人 (100%)

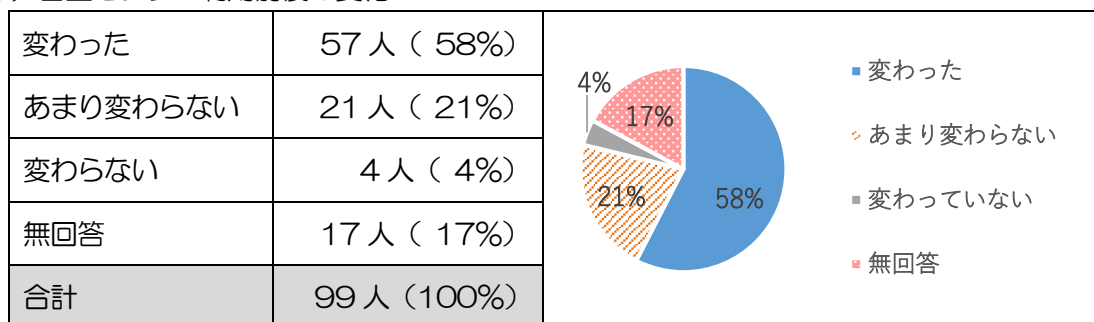
◆ (2) 日中活動のうち「就労」の内訳



◆ (2) 日中活動のうち障がい福祉サービス利用 (複数回答可)

障がい者職業能力開発校	1人 (2%)
就労移行支援	11人 (18%)
就労継続支援 A 型	6人 (10%)
就労継続支援 B 型	27人 (44%)
生活介護	4人 (7%)
地域活動支援センター	2人 (3%)
自立訓練	10人 (16%)
その他	0人 (0%)
合計	63人 (100%) (61回答)

(3) 自立センター利用前後の変化

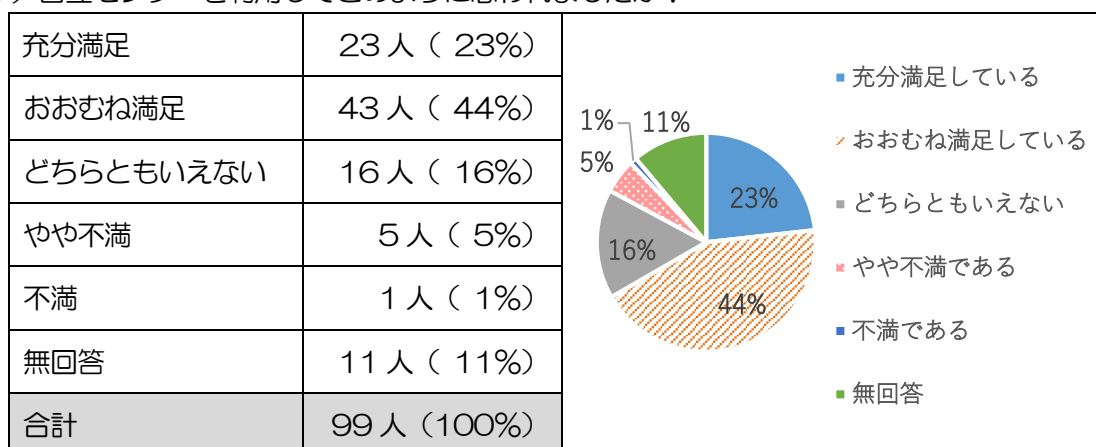


<「変わった」と回答した人の意見>

- 規則正しい生活ができるようになった。健康面に以前より気を付けるようになった。
- 車椅子生活から杖生活になり、自分でできることを増やしている。
- 自分で注意しなくてはならないことや、忘れ物をしない工夫ができるようになった。
- 自分と同じ障がい者同士で会話することができた。
- 簡単な買い物、公共交通機関を使っての移動ができるようになった。
- 利用者向け講座や利用者同士の会話の中で、自分の知らなかったことを沢山知ることができた。

2. 自立センターについて

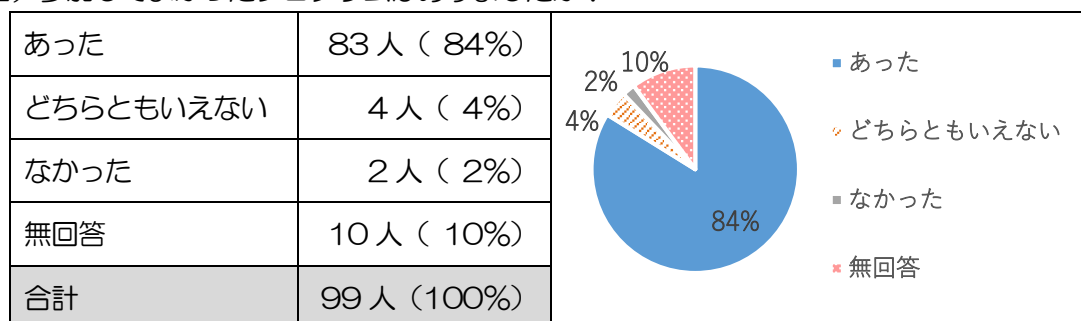
(1) 自立センターを利用してどのように思われましたか？



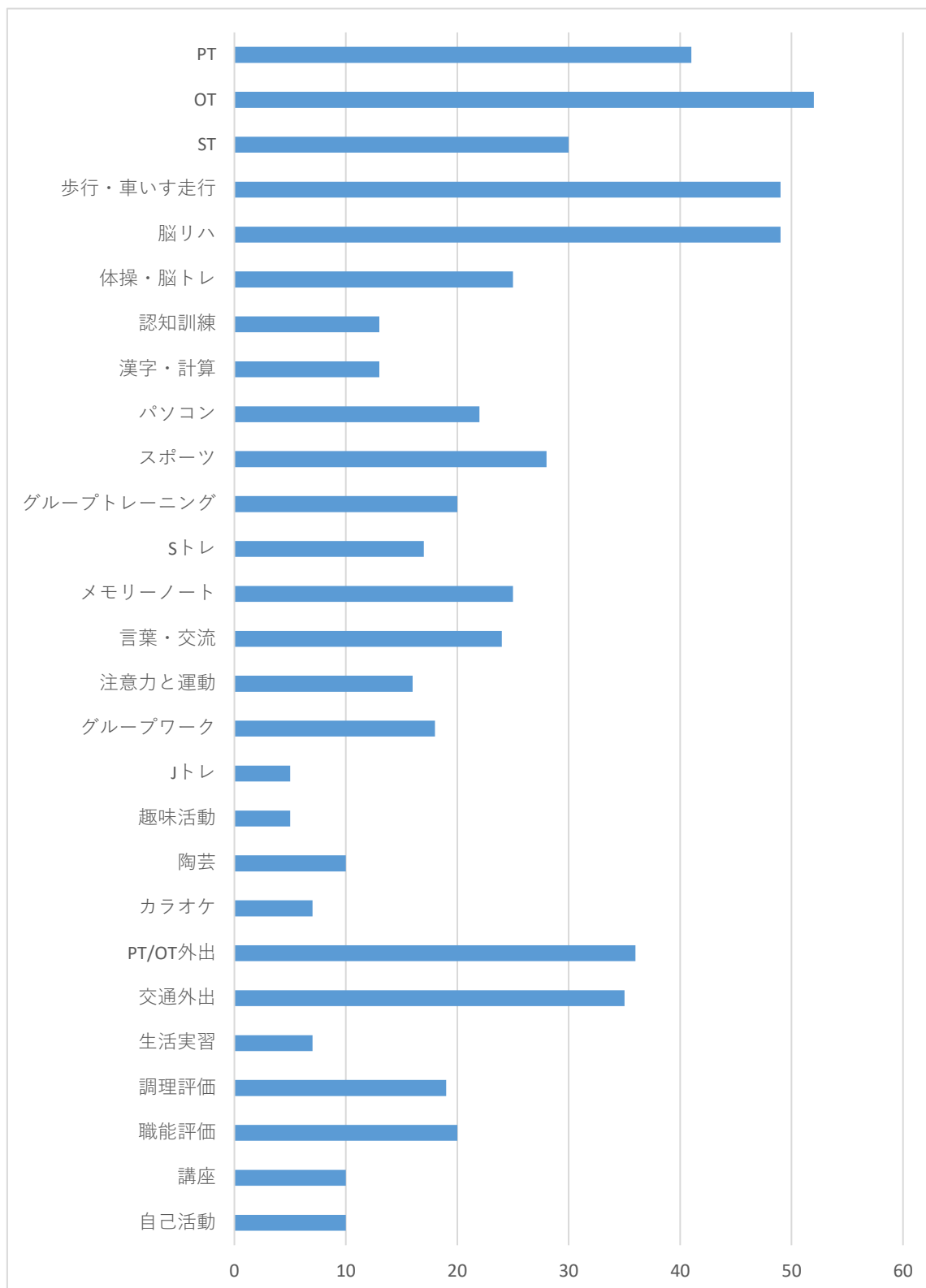
<利用者の感想（不満な点）>

- OPT、OT、STの時間が少ない
- 多くの利用者が一斉に運動するので自己流になり、個人的なアドバイスをほとんどうけられなかった。
- コロナの影響で約1か月程休みになってしまった（通所）。
- プログラムの内容が緩すぎて、最初に思い描いていたものと違っていた。

(2) 参加してよかったプログラムはありましたか？

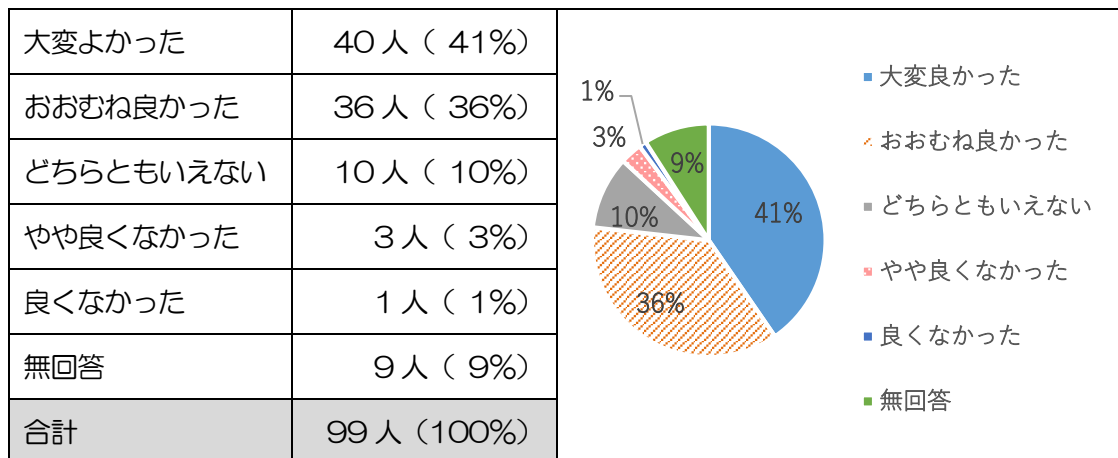


◆参加してよかったプログラム（複数回答）



※各プログラムの内容については、p.10～11をご覧ください。
受講するプログラムは、利用者によって異なります。

(3) 職員の接し方や態度は適切でしたか？



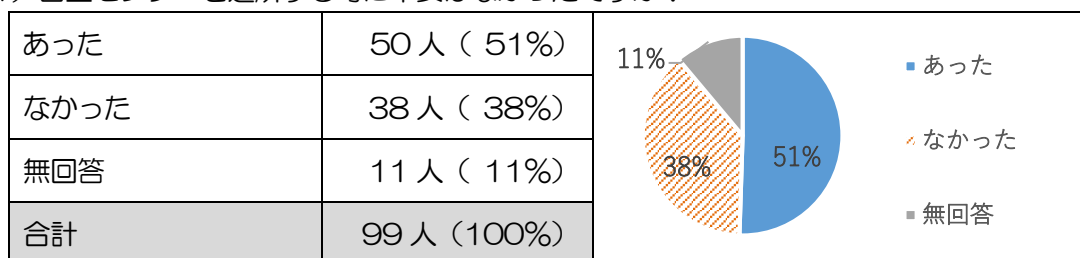
<良かった点>

- いつも丁寧に、親身になって相談を受けてくれた。
- 要望や質問があった際に、すぐに検討なり対応してくれた。職員の方はとても親切で、快適に生活をおくることができた。
- 退所後のことを考えてリハビリ、就労Bの話をちゃんと進めてくれた。
- アドバイスで「こうしたらいいよ」と言ってくれたことがよかった。
- 心の悩みをしっかり聞いてくれた。
- 目線を合わせてくれる。
- 時間を充分に使って対応してくれた。失語症でうまく話せないのに、丁寧に聞いてくれた。

<良くなかった点>

- 巡回で部屋に来た際、声もかけずにベッドの姿のみ確認して、部屋を出ていく職員がいた。せめて「巡回です」と声をかけてほしかった。全てにおいて言葉が足りないと思った。
- 人数が多い授業は、どうしてもあまり対応しきれていない。
- 職員同士の伝達で、こちらが伝えたことがきちんと伝わっていないことがある。
- コミュニケーションがしづらい（忙しくて会えない）。

(4) 自立センターを退所する時に不安はなかったですか？



<「不安があった」と回答した人の意見>

- コロナの影響で会社との話し合いがセンターを退所するまでにできず、これからのことが少し心配。
- 自宅に帰った時に、本当に自立した生活が再開できるのか。
- リハビリがなくなることが不安。
- 就Bの稼ぎ、内容が不安。
- 行政サービスが細かすぎて、窓口等適切に使い分けできるか。
- 家族の生活費をどう工面し、仕事をどうするか。
- 生活リズム、精神の安定。
- 家族とのコミュニケーションが出来るのか。食事の時間や内容など(スケジュール通りではないこと)。

3. これからの生活について

(1) これからやってみたいことは何ですか？

- 車の運転 ○パソコン ○ジム ○旅行 ○スポーツ ○仕事
- 杖無しで歩けるようになりたい ○復職 ○職業訓練校に行ってみたい
- 自立して就労して暮らしていける様になる事 ○一人暮らし ○治験モニター
- 映画等のボランティアエキストラに参加したい

(2) こんな支援があればいいのに、と思うことはありますか？

- 退所者が情報交換できるような、掲示板のようなインターネットサービスなど。
- 寂しい時に話を聞いてくれる人がいれば。
- ええで帳（情報提供書）プラス、その人ごとに利用できるサービス等をわかりやすくしたマニュアルが欲しい。
- 雨の日に優先してタクシーに乗れるサービス。
- リモート環境での相談やカウンセリングができれば、相談する側、相談を受ける側、双方にメリットがあると思う。

Ⅲ. 調査結果のまとめ

当センターでは、開所した平成19年4月より、退所された方々を対象に利用満足度を把握するアンケート調査を実施してきました。今回は令和2年4月から令和4年3月末までに退所された方々の回答を集計しました。

アンケート用紙は退所された方全員に配布し、回収率は前回の73%から87%となり増えています。

退所後の住まいについては、前は家族と同居が約59%と半数を占め、次いで単身生活が17%となっていました。今回は家族と同居が54%で半数を占めていることは変わりありませんが、次いでグループホームが17%となっています。

日中活動では就労された方の復職の割合は前回56%、新規就労が22%であったのが、今回は復職が29%、新規就労が24%で復職の割合が減っています。一方、障がい福祉サービスを利用された方の割合が増えており、センターでの生活を通して新たな選択をされた方の割合が増えたと考えられます。

自立センター利用後の生活の変化では、変わったが前回同様58%となっています。自立センターを利用した満足度は前回から8%減となっており、無回答の割合が9%増えた結果となっています。

参加してよかったプログラムがあったかについては、84%の方があったと回答しています。内訳としてはPT、OT、STなどの専門的な訓練とともに、基本的な体力作りの歩行・車いす走行、脳リハ、体操・脳トレなどの高次脳機能障がいに関心のあるプログラム、パソコンも高い評価となっています。

職員の対応は大変良かったが42%、おおむね良かったが36%で78%が良かったとされ、どちらでもないが10%、やや良くなかったが3%、良くなかったが1%となっています。

退所時の心配については51%の方があったと回答してしましますが、前回よりも9%減っています。日常生活、リハビリ、就労、学業についての不安を持ちながら退所される方は依然として多いですが、センター利用中に先の見通しを付けて退所される方の割合も増えていると言えます。

今後もアンケートの回収率を維持、向上しつつ、今回いただいた貴重な意見を職員間で共有し、支援の質と利用満足度の向上に努めていきます。

最後に、アンケートにご協力をいただいた利用者・ご家族の皆様方に厚くお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

プログラム名	内容や目的
PT(理学療法)	身体・運動機能の把握、評価と維持・向上、特に移動能力の向上をはかる。 関節可動域訓練、筋力増強訓練、基本的姿勢訓練など。 ※対象は機能訓練の利用者のみ
OT(作業療法)	日常生活動作能力、認知能力の向上をはかる。 巧緻性動作訓練、関節可動域訓練、筋力増強訓練、日常生活動作訓練、認知訓練など。
ST(言語療法)	失語症・高次脳機能障がいの利用者を対象に、コミュニケーション能力の向上をはかる。 失語症・高次脳機能障がいの評価・訓練、その他のコミュニケーション手段の検討など。
歩行・車いす走行	歩行能力・車いす駆動能力・基礎体力の向上をはかる。活動性の向上をはかる。
グループトレーニング	ストレッチ・筋トレなど、基本動作の向上のための基礎訓練。グループにより、更衣等日常生活動作の基礎的動作、外出、コミュニケーション等を行う。
入浴	日常生活動作の向上をはかる。 利用者個々の介助方法の評価など。
スポーツ	スポーツを通して、心身の健康の維持・向上をはかる。 ボッチャ、グランドゴルフ、ボウリングなど。
グループワーク	小人数のグループにて、高次脳機能障がいの理解・受容の促進や地域生活にむけた課題の整理をはかる。自分の心身の変化に気づき、ストレスへの対処法を身につける。
パソコン	基本技能の習得と向上。認知機能の改善をはかる。 タイピングや文章作成など。
脳リハ	認知機能の維持、改善をはかる。注意、集中力の向上をはかる。 文章文字消し、漢字や計算のドリル、書写、脳トレーニングなど。
認知訓練	聞き取り・書き写し・発表などの課題を通して、集中力・記憶力やコミュニケーションの向上をはかる。
体操・脳トレ	運動(移動)を伴う認知訓練。
メモリーノート	予定管理能力の向上、記憶障がいや遂行機能障がいの代償手段の獲得をはかる。
注意力と運動	記憶障がい、注意障がいや半側空間無視の症状に気づき、周囲に注意を向けながら、安全に行動や移動ができるようになることを目指す。
言葉・交流	言葉以外の手段も利用して、生活上の簡単なコミュニケーション能力の向上をはかる。失語症の利用者同士の交流をはかる。コミュニケーションを楽しむ。
Sトレ	共同作業を通して他者との交流を楽しみながら、活動性の向上や作業能力の向上をめざす。
Jトレ	模擬的な事務作業を行い、作業能力の向上をめざす。
趣味活動	余暇活動の充実や書字能力・集中力の向上をはかる。利用者同士の交流をはかる。

	書道・筆ペン習字・写経・絵画・絵手紙・塗り絵など。
陶芸	余暇活動の充実をはかるとともに、手指を使う機会とする。
カラオケ	余暇活動の充実をはかる。(コロナウイルス感染症対策により自粛中)
PT/OT 外出	外出時に介助や見守りが必要な利用者に対し、理学療法士や作業療法士が車いす操作訓練や近辺外出訓練を行い、単独外出範囲拡大をはかる。
交通外出	公共交通機関(電車・バス)を利用した単独外出の練習と評価。 ※単独での外出を想定し、障がい者手帳の提示や駅員への介助依頼も利用者が行う
生活実習	キッチンや浴室のある個室にて、単身やグループホームでの生活を想定した生活(買い物・調理・清掃・入浴等)とその評価を行う。
調理評価	調理動作の練習・評価を作業療法士が行う。
職能評価	軽作業と事務作業を通し、就労をめざすための基本的な能力の確認を行う。
作業体験実習	厨房業者の協力を得て、食堂にて配膳・後片付けの実習と評価を行う。(コロナウイルス感染症対策により自粛中)
講座	健康管理や社会資源の利用など地域生活で必要となる内容について、啓発や情報提供を行う。
朝の会	見当識や連絡事項の確認や記録、スケジュール管理の習慣化をはかる。体操やストレッチによる身体機能の維持、向上をはかる。
自己学習・自主トレーニング	自由時間に各自で設定した課題(計算ドリル、パソコン等)に取り組む。PT/OT/ST から自由時間に行う自主トレーニングを提案。※取り組む内容や量については、必要に応じて職員が支援

※ プログラムの名称や内容は令和4年11月時点のものであり、今後変更となる可能性があります。